

活動報告

団体名	しずおか茶の国会議
活動名	熱海市の避難者の為の避難生活の支援活動
活動期間	2021/07/11～2021/07/31
活動の成果	<p>1.健康体操について</p> <p>避難所開設当初、健康チェックを行っていた DWAT や県の保健師さんの話から、ホテルという環境の中で体を動かす事が少ないのでこのままでは生活不活性病になる恐れがあるとの情報。移動支援をしていた DMAT と協力して健康維持の為の健康体操を行う事を提案。当初あまり積極的でなかった避難者、特にお年寄りが送迎を行う事で定期的に来てくれるようになった。又継続することで体調も良くなり、杖を使わなければ移動できなかった方も杖なしで動けるようになったとの報告も受けた。極端な例だが、毎日規則正しい生活をする事で普段の生活のリズムを取り戻すことができた事も体調維持ができた理由の一つかと思われます。</p> <p>災害後よく問題となる災害関連死について幸いの所今のところ出ていない。これは避難所がホテルという環境によるところがあるかと思われる。一方で、環境が良すぎるために新たな生活不活性病という問題が出るのが分かったこと、そしてそれに対して多くの団体が協働体制を作って対応できた事などが今回の大きな成果だと思っています。</p> <p>2.自立支援について</p> <p>一方で、当初目標としていた自立支援という問題。避難所がホテルという特殊な立地の中で住民同士の避難所運営があまり進まなかった様に感じます。ホテルのスタッフや行政の職員が常駐し何もしなくても滞りなく運営されている中で住民が積極的に関われる環境になかったことも理由の一つでしょうか。ただ、定期的に話し合いの場は地元の自治会長さんや民生委員さんを中心に行われていたようです。足腰が弱く食堂まで下りて来れない方の為のお弁当の配食や救援物資の配布所での手伝いなども一部で行われておりました。又女性目線で考えた物資の配給会など若いお母さんたちのグループが動いていました。情報交換も SNS を使って行うなど、今後は今までにないような避難所運営の形があるような気がしています。</p> <p>3.情報</p> <p>今回健康体操を中心に支援活動を行ってまいりましたが、その中で特徴的だったのは、みなさん人との交流を求めているという事。今回は特にホテルの個室という状況の中引きこもってしまうとほとんど人との接触はなくなってしまいます。その環境の中で将来への不安とか健康に対する不安とか、本来なら地域のコミュニティの中で対応してきた問題がホテル生活の中で表面化してきたように感じました。健康チェックのあと、健康体操の後でじっくりお話を聞く機会が今回の支援の中で重要な時間であった気がします。今後避難所が解消し、借上げ住宅や新しい住居での生活が始まり支え合いセンターも動き出しますが、その時我々がどのような支援ができるのか今後も考えて行きたいと思っています。</p>
寄付者へのメッセージ	避難所がすべてホテルという今までにない形での支援活動で戸惑う部分もありましたが、今の時点での災害関連死ゼロという結果を見るとやはり被災後の生活環

境の在り方が被災者の方達の生活面に大きく影響しているのだからということがわかりました。ただ一方で生活不活性病や孤立化など、新たな問題も出てくるのだという事も今回わかりました。

今後は避難所から出た後の皆さんの生活をどう支えていくのか、一人一人に寄り添った活動を考えて行きたいと思っています。この度はありがとうございました。

(活動のようす)

